

今年度の発掘調査等について

令和 7 年 3 月開催の第 7 回史跡広島城跡保存活用会議において検討・了承された今年度実施の発掘調査等について、調査箇所や調査方法等の具体化手法について検討する。

1 主な目的

- ・ 昨年度の調査により、天守台石垣基礎（北西隅・北東隅）の構築状況と基礎設置面の一端が明らかになった。また、同時に戦後火災整理層（1b 層）とその平面分布範囲、内堀石垣との関係性といった新たに確認が必要な課題も確認された。
- ・ 今年度は、本丸上段と下段の堆積状況の比較、天守台南東隅部の石垣基礎設置面の確認に主眼を置き、調査執行体制及び予算の範囲内で優先順位を付けて実施し、今後の整備の基礎資料とする。

2 調査箇所

天守台周辺等（資料 2 - 2 「今年度の発掘調査箇所」参照）

3 調査方法

(1) ①天守台基礎部（北東・北西隅部）追加調査

令和 6 年度調査区を北側へ拡張する。掘削深度は 1b 層上面（TP3.8m）を目安とし、内堀石垣に係る構造（栗石や裏石垣等）が確認される地点まで北側へ拡張する。確認の後、内堀石垣の基礎部分確認を目的として天守台石垣基礎設置面の 4b 層上面（TP2.6m）まで掘り下げる（調査模式図「令和 6 年度調査区の拡張方法」参照）。

なお、昨年度、石垣基礎設置面で確認された配石遺構の検出状況に応じて、追加の拡張調査を行う場合がある。

(2) ②天守台基礎部（南東隅部）

天守台南東隅部を石垣基礎設置面まで掘り下げる。昨年度の状況を鑑み、掘り下げは人力と重機の併用を想定し、掘削範囲内で確認される遺構面（少なくとも近現代 1 面・近世 1 面）については、記録保存措置を取る。

(3) ③東小天守台（南東隅部：上段）、④東小天守台（北東隅部：下段）、⑤東走櫓北面（下部）

(1)及び(2)の調査状況を踏まえ、関係委員とも協議の上、優先順位を付けて実施を検討する。

(4) 物理探査（青の網掛け）

史跡保護の観点から、各種非発掘手法による物理探査を併用し、効果的な情報取得を図る。地中レーダー探査による埋没遺構確認に加え、給排水や送電に係る埋設設備の把握を目的とした磁気探査を行う。

4 今後のスケジュール

現地調査は10月から12月までの実施を計画しており、検討会議委員及び石垣部会委員等による現地視察を予定している。

※現地視察は11月に予定している。

※安全管理上、市民への公開は実施しない。ただし、昨年度と同様に調査状況等を掲出する。掲出は、現地及び埋蔵文化財保存活用施設（西区福島町）でも行う。

調査模式図「令和6年度調査区の拡張方法」

